

支え合い、励ましあった“人生の友” サークルサークル卒業版

勝利を信じて練習に汗を流した日々、明日のための血のにじむような研鑽、仲間との楽しい思い出づくり。スポーツに学術文化活動に、多くの学生がキャンパスライフを満喫したことだろう。ここでは体育会、県人会、一般サークルなど8団体の代表に、青春の思い出を語ってもらった。

舞踏研究会 ダンスは自分を大きく成長させた 円谷学くん 法律学科、東京都調布南高
=警視庁



舞踏研究会は社交ダンスを習得するところで、競技ダンスを志向しています。会員は現在50～60人。1週間に2回(水・土)、パートナー校の相模女子大と女子美術大へ行き、3～5時間の練習をしています。高校では野球をやっていたので、スポーツのサークルに入りたいと思っていたのですが、入学時に勧誘され、何気なく入会したんです。最初はステップの基本から始めますが、全身を使う運動なので意外にハードなスポーツだと分かってきました。練習

するうちにパートナーの足を踏むこともなく踊れるようになると、おもしろさが出てきて魅せられ、2年次からダンススクールにも通うようになりました。競技ダンスはモダンとラテンに分かれ、夏と冬に学連の全国大会があり、このほか東都大学、東部大学の大会が行なわれます。私は2年次から学連のラテンの部に出場し、4位入賞したときは非常にうれしかったです。

春、夏には長野県の本島平で1週間合宿生活をしながら、筋トレや強化練習もしました。6時30分起床。午前9時から午後9時までフロアで自主練習するというハードものでした。でもダンスを踊れるようになったときの喜びは計り知れないものがあり、自分を大きく成長させることが出来たと思います。卒業後は警視庁に入庁しますがパートナーが見つからなければひ続けたいですね。

英会話研究会(ECC) 仮入部での失敗バネに英語力向上 酒井陽年くん 法律学科、東京都専大附属高=ヒューマンアカデミー



入学時、英語を本格的に勉強しようと、英語サークルを探しました。目にとまったのが「英会話研究会」。文字通り英会話を上達させることが目的と思いましたが、ディベートとディスカッションを英語で行なう能力を徹底的に磨くサークルだということがあとから分かりました。

まだ仮入部の時に、何が何だかわからないままディベートの試合に出場しました。「国際結婚」がテーマで、聴衆の前に立ったら頭の中が

真っ白になり、与えられた8分間の中で英語どころか話す内容も思い浮かばず、途中「I can't say…」と言い残して壇を降りました。恥をかきましたが「これは自分のプラスになる」と確信。本格的に活動に取り組み始めました。

年3回ほど関東学生英語会連盟主催の他大学との試合に出場します。試合では当日にテーマが与えられるため、さまざまな分野での幅広い知識も必要とされます。週3回ほど集まって練習試合をし、英語のテープを聞き、話す能力を養うと同時に論理的に表現出来るよう訓練を続けます。知らず知らずのうちに論理力も身につく、就職活動でもプラスになったと思います。

入部時、10人ほどだった部員も現在、約40人に。3年次には代表を務めました。

ローラースケート部 アジア大会日本代表に選抜される 山本篤くん 国際経済学科、東京都専大附属高=アドヴァン



小学校から地元のクラブチームでローラースケートを始めました。ほかのスポーツにも取り組みましたが「人と違うこと」をしたくて続けてきました。

インターネットのホームページでローラースケートについて調べると、すべてスペイン語で書いてあるんです。もっと競技のことを深く知ろうとスペイン語を履修、春期プログラムにも2回

参加し、語学力を磨いてきました。ヨーロッパではローラーホッケーのテレビ中継もあり、すごい人気。日本でもメジャーになるといいですけどね。留学仲間たちとは卒業旅行でもスペインへ行ってきました。

主務として連盟のことや会計、OBとの連絡など、競技以外の仕事もこなさなければならず、きつい時期もあったのですが、社会人との接し方・話し方なども学ぶことが出来、それもいい経験となりました。

3年次にアジア大会日本代表に選抜され、ローラーホッケーで3位となったこと、チームとしては全日本学生選手権総合優勝(連覇)が最高の思い出です。指導体制や練習場所にも恵まれ、競技に打ち込める環境であったことに感謝しています。持久力・筋力・瞬発力と、総合的な高い身体能力が求められるこの競技を今後も続け、世界選手権への出場を目指します。

ダンスチームミサキ(DTM) メンバーと力合わせ鳳祭盛り上げ 丸田覚実さん 経営学科、神奈川県関東学院六浦高=新東京旅客サービス



DTMと共に過ごした4年間でした。3年次の時には代表を務め、サークル活動の集大成ともいえる鳳祭のステージを、メンバーとともに力を合わせてやり遂げたことがなんとも最高思い出です。

ジャズダンスは未経験でしたが、先輩から活動の写真を見せてもらい「私もこんなふうに踊ることが出来たら」と入部を決意しました。インストラクターの指導の下、レッスンを重ねるうちに

ダンスをするだけでなく振り付けをする楽しさも覚え、もっと技術を向上させたいとダンススクールにも通うようになりました。

学内でのステージのほか、オーディションを受け東京ディズニーランドのカウントダウンパレードや、NHK紅白歌合戦のバックで踊るチャンスもあります。他大学生や外部のダンサーと一緒にステージで、貴重な体験です。私は2年次の時「紅白」に出場する機会に恵まれました。この年は演歌歌手のバックで「日本舞踊らしきもの」を踊ったのですが、全国生放送で緊張しました。

楽しかったこと、苦しかったことを共有し、意見を戦わせたメンバーとの交流も忘れられません。今後もダンスは続けていきます。

サーフィン愛好会「全日本団体」で団体6位に入賞 島田恵造くん 商業学科、東京都東洋高=グローバルダイニング



高校の時からサーフィンをしていて、大学でも続けようと入会しました。

会員は約20人で、そのうち3分の1は初心者。千葉県夷隅にクラブハウスを借りて練習しています。クラブハウスにはサーフボードやウエットスーツなどを保管することが出来、宿泊用の備品もあり、長期休暇や週末には泊り込みで練習に励む部員もいます。練習はオールシーズンで、各自で日程を調節して週1回以上行ない

ます。春、秋の全日本学生サーフィン選手権を目指してみんな真剣に練習に打ち込んでいます。

全日本学生選手権には全会員が出場し、現在の自分のレベルを知る良い機会になります。昨年の秋季大会では、1年次生や女子の活躍もあって団体で6位に入賞。念願の表彰台に上り、ガッツポーズを決めました。

一番の思い出は代表として参加した3年次の春合宿です。毎年、波が良く、サーフィンには絶好のバリ島で行なっています。この年は特に波が大きく、怖がる会員もいましたが、日本では味わえない豪快なサーフィンを楽しめました。

いい仲間と出会い、ひとつのことを諦めずに挑戦した4年間。壁に当たっても、負けずに頑張ったという経験は財産になると思います。後輩たちにも、悔いの残らないサークル生活を過ごしてほしいと思います。

卒業後もサーフィンを続け、“波”を楽しみます。

居合道部 素振り2千本の厳しさ乗り越えて 阿部洋子さん 経営学科、神奈川県新城高 =安田生命保険相互会社



高校までバスケ部だったので大学でもスポーツを、と考えていました。新人勧誘で先輩の感じがとても良かったので友人と入部しましたが、当時女子は2人だけ。試合では男女の区別がないため、練習でも男女の差はありません。特に夏合宿は「素振り2000本」などの厳しいもので、何度も辞めようと思いました。でも練習を離れれば優しい先輩たちばかり。悩んでいた私に続けることの意義を教えてくださいました。

試合は「仮想敵」を作って演舞を行い、トーナメント方式で争います。そこに集中力やリアリティがないと単なる「踊り」になってしまうのです。尊敬できる多くの方々が真剣に指導してくださる中で、私もこの方たちにお返しをしなければ、という気持ちで練習にも気合が入るようになりました。最終学年では関東学生大会で個人・団体とも3位に入賞、全日本学生大会にも出場がかない、良い思い出となりました。

「居合道」を通じてさまざまな年代の方と出会って、たくさんのことを学び、そこから刺激を受けました。人と話すのが好きなので、営業という仕事でまた多くの方々と出会うのが楽しみです。時間の許す限り道場に通い、今は三段ですが、さらに上の段を目指したいと思います。

山形県人会 本場仕込みの“芋煮”が鳳祭で好評 乗田浩平くん 商業学科、青森県弘 前南高=青森スバル自動車



何度か遊びに行ったことがあり、親近感があつた山形県の文化・風土を知ろうと入会しました。会員約40人のアットホームな会で、連県主催行事にも積極的に参加。みんなで場を盛り上げようとするので、どの活動も“楽しい”の一言です。

自県出身者は10人ほどで、山形に行ったことがないメンバーも多く、年2回の合宿では出来るだけ山形に行くようにしました。

中でも思い出に残っているのは2年次の夏合宿です。蔵王温泉に宿泊し、市内を観光。馬見ヶ崎河川敷で行われた「日本一の芋煮会フェスティバル」に参加するなど、山形県を満喫しました。特に芋煮会では本場ものを食べることが出来たので、毎年鳳祭に出店している「芋煮」の模擬店の味が良くなったと評判でした。訪れた卒業生やキャンパス周辺の人には「この芋煮を食べるために来ました」と言ってくれる方もいて、苦労したかいがありました。

今年2月の冬合宿で再び蔵王へ。スキーと温泉を楽しみ、地元の人と交流し、山形の人々の温かさに触れるなど、充実した合宿になりました。

2年次の後期からは1年間会長を務め、人をまとめる力がついたと思います。県人会は、さまざまな県の出身者が集まっているので、いろいろな地方の文化を感じる事が出来、刺激になりました。

二部学生会 多様な社会人学生の連帯感高める 倉本剛宏くん 二部法律学科、東京都昭和一高=リサイクル業



二部には、社会人もいて多様な人々が学んでいます。仕事の関係で横の連携が取りにくい。学生会は、集会やイベントを通じて、キャンパスでの連帯感を高めようと精力的な活動を展開しています。学生会の活動に参加したのは2年次から委員になったのがきっかけで、皆でいろいろアイデアを出し合っ、共同でひとつのものを作り上げていく喜びを感じたんです。4年次には事務局長を務めました。事務局の下に特別事業部、事業部、同好会、愛好会

などがあります。

学生会の主なイベントを挙げると、新入生歓迎関連イベント(4月)、夏休みサマーエンカウンター(昨年は山中湖で合宿)、秋季体育祭(10月)、神田鳳祭(10月)、雪だるまスキー講習会(2月~3月)、卒業生を送る会(3月)などがありますが、とくに3年次に体育祭の実行委員長になり生田キャンパス野球場でソフトボール大会を開催。16チームが参加して熱戦を繰り広げたことが思い出に残っています。

性格的に引っ込み思案のところがあるのですが、活動する中で仲間が出来、積極的に思考できるようになりました。同時に協力していくことの重要さなど、多くのことを学ぶことが出来ました。この経験を生かして、将来は何か人のためになることを実現したいと考えています。

[3月27日/ニュース専修4面]